



経歴等

- 2004年 中央大学法学部卒業
- 2006年 東京大学法科大学院修了
- 2007年 マリタックス法律会計事務所
(現マックス法律事務所) 入所
以降、海上運送、備船、船舶売買、造船、船舶金融など各種契約案件や
海難事故対応を中心に、多数の海事関係事案を担当。保険業法など保険会社の
コンプライアンスにも長年にわたり従事。
- 2013年 University of Southampton, LL.M Maritime Law
- 2014年 University of Law, Graduate Diploma in Law
- 2014年～2022年 Britannia P&I Club日本支店
- 2022年 戸田総合法律事務所入所

講演・論文等

書籍等出版物

- 『設問式船荷証券の実務的解説』（松井孝之弁護士と共同編著）（成山堂書店、2016）

分担執筆

- 「P&I保険はどのようなリスクを補てんするものか」秋葉里恵編『設問式 シップファイナンス入門』（成山堂書店、2020）

論文・海上運送関連

- 「FIOSI約款による運送人の義務違反の回避：積付不良を中心に」海事法研究会誌226号26頁（2015）
- ‘End of Conundrum or Beginning of Conundrums? - FIOSI after Japan’s Maritime Law Reform’ Wave Length No.62 (2017)
- 「定期備船契約のフラストレーションを考える前に(1)―The Hongkong Fir再論―」海事法研究会誌256号2頁（2022）
- 「定期備船契約のフラストレーションを考える前に(2)―The Hongkong Fir再論―」海事法研究会誌257号2頁（2022）
- 「定期備船契約のフラストレーションを考える前に(3)―The Hongkong Fir再論―」海事法研究会誌258号50頁（2023）
- 「定期備船契約のフラストレーションを考える前に(4)―The Hongkong Fir再論―」海事法研究会誌259号12頁（2023）
- 「定期備船契約のフラストレーションを考える前に(5)―The Hongkong Fir再論―」海事法研究会誌261号50頁（2023）

造船契約関連

- 「英和対訳 BIMCO標準新造船契約(NEWBUILDCON)逐条対訳(1)」海事法研究会誌206号48頁（2010）

国際私法関連

- 「法の適用に関する通則法施行後の船舶先取特権の準拠法をめぐる最近の議論および裁判例について―近時の定期備船者倒産事例の紹介」NBL899号28頁（2009）（松井孝之弁護士と共同執筆）

英国裁判・仲裁関連

- 「解説：英国裁判制度 No.1 英国における裁判所制度」海運1034号68頁（2013）
- 「解説：英国裁判制度 No.2 英国の民事訴訟手続き」海運1036号84頁（2014）
- 「解説：英国裁判制度 No.3 英国での仲裁手続、特に仲裁判断の取り消しについて」海運1037号61頁（2014）
- 「解説：英国裁判制度 No.4 英国の裁判所と先例拘束性の原理」海運1038号41頁（2014）
- 「解説：英国裁判制度 No.5 民事訴訟費用の敗訴者負担について」海運1040号47頁（2014）
- 「解説：英国裁判制度 No.6 法人格否認の法理の新展開」海運1042号82頁（2014）
- 「解説：英国裁判制度 No.7 英国裁判所におけるEU法の扱い(1)」海運1045号59頁（2014）
- 「解説：英国裁判制度 No.8 英国裁判所におけるEU法の扱い(2)」海運1046号67頁（2014）
- 「解説：英国裁判制度 No.9 英国裁判所におけるEU法の扱い(3・完)」海運1047号65頁（2014）
- 「解説：英国裁判制度 No.10 裁判所と仲裁廷の関係(1)―Separability」海運1048号73頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.11 裁判所と仲裁廷の関係(2)―仲裁権限判断権」海運1049号64頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.12 裁判所と仲裁廷の関係(3)―Front Comor号事件(上)」海運1050号34頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.13 裁判所と仲裁廷の関係(3)―Front Comor号事件(下)」海運1051号51頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.14 裁判所と仲裁廷の関係(4)―ニューヨーク条約」海運1052号80頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.15 裁判所と仲裁廷の関係(5)―アレスト(1)」海運1053号51頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.16 裁判所と仲裁廷の関係(5)―アレスト(2)」海運1054号69頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.17 裁判所と仲裁廷の関係(5)―アレスト(3)」海運1055号47頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.18 裁判所と仲裁廷の関係(5)―アレスト(4・完)」海運1056号63頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.19 裁判所と仲裁廷の関係(6)―主権免除」海運1057号54頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.20 裁判所と仲裁廷の関係(7)―保全措置」海運1058号58頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.21 裁判所と仲裁廷の関係(8)―仲裁事件の併合」海運1059号54頁（2015）
- 「解説：英国裁判制度 No.22 裁判所と仲裁廷の関係(9)―仲裁合意の人的範囲」海運1060号108頁（2016）
- 「解説：英国裁判制度 No.23 裁判所と仲裁廷の関係(10)―判断矛盾の防止」海運1061号54頁（2016）
- 「解説：英国裁判制度 No.24 裁判所と仲裁廷の関係(11)―人的範囲の拡張(1)」海運1062号56頁（2016）
- 「解説：英国裁判制度 No.25 裁判所と仲裁廷の関係(11)―人的範囲の拡張(2)」海運1063号67頁（2016）
- 「解説：英国裁判制度 No.26 裁判所と仲裁廷の関係(11・完)―人的範囲の拡張(3・完)」海運1064号56頁（2016）
- 「英国仲裁法紹介 第1回 国際商事仲裁のキーワード(1)―仲裁手続きとは・再考―」海事法研究会誌232号38頁（2016）
- 「英国仲裁法紹介 第2回 国際商事仲裁のキーワード(2)―国際仲裁とLex Arbitri―」海事法研究会誌233号25頁（2016）
- 「英国仲裁法紹介 第3回 国際商事仲裁のキーワード(3)―商事と海事―」海事法研究会誌234号46頁（2017）
- 「英国仲裁法紹介 第4回 仲裁提起の前提条件―仲裁提起前の誠実協議義務について―」海事法研究会誌235号51頁（2017）
- 「英国仲裁法紹介 第5回 仲裁の提起―仲裁提起の通知に慌てないために―」海事法研究会誌236号27頁（2017）
- 「英国仲裁法紹介 第6回 紛争―仲裁提起の前提条件・再論―」海事法研究会誌237号51頁（2017）
- 「英国仲裁法紹介 第7回 仲裁人(1)―仲裁人の報酬・費用―」海事法研究会誌238号60頁（2018）
- 「英国仲裁法紹介 第8回 仲裁人(2)―仲裁人の資格―」海事法研究会誌239号46頁（2018）
- 「英国仲裁法紹介 第9回 仲裁人(3)―仲裁人の職責：不偏性と開示義務を中心に―」海事法研究会誌240号15頁（2018）
- 「英国仲裁法紹介 第10回 仲裁手続き(1)―当事者の協力義務―」海事法研究会誌242号73頁（2019）

発表

- 「FIOSI約款による運送人の義務違反の回避」第66回（平成28年度）日本海法学会
- 「The Distance between Arbitration and Litigation– Use of Arbitrator’s Own Expert Knowledge Revisited’ ICMA XXII (International Congress of Maritime Arbitrators), Dubai (2023年11月)」

メッセージ

変化していく世の中であって変わらぬものを大切にできるよう努めています。
いつの世も社会は変革と直面してきましたが、人間は常に他者と協働して生きてきました。
私も、cool head but warm heartの精神で海事法の専門家としての役割を果たしていきたいと思ひます。